

## 令和7年度第3回設楽町総合計画／まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会議録

日 時：令和8年3月2日（月）午後7時～午後9時

場 所：設楽町役場 議場

出席者（◎は会長）

熊谷 浩一 委員（愛知東農業協同組合 総合企画部長）

佐々木公仁 委員（設楽町森林組合 参事）

金田 治久 委員（愛知県淡水養殖漁業協同組合）

関谷 健 委員（設楽町商工会長）

伊藤 昭広 委員（設楽町教育委員）

金田 季也 委員（設楽町小中学校長会長）

伊藤 美香 委員（設楽キラリンとーぷ 所長）

園原 明子 委員（町民公募、子育て）

小西 勇基 委員（町民公募、子育て）

加藤 隆雅 委員（豊川信用金庫 新城中央支店長）

清水 貴裕 委員（したらワークス協同組合 事務局長）

高松 哲也 委員（一般社団法人設楽町観光協会 事務局長）

◎ 渡辺 哲広 委員（津具どっとこい）

近藤 友樹 委員（THE TAGUCHI CULTURE CLUB 代表）

加藤 沙弥 委員（株式会社みらいび）

※ 以上、委員 15 名出席（欠席：峯田絵美子委員、伊藤隆啓委員、松井祥悟委員、黒岩祐治委員）

事務局：企画ダム対策課長ほか課員 5 名

受託者：名古屋大学 4 名

### ・ 議員の異動の報告について

久嶋啓太委員から令和7年12月1日付で辞任の申し出があり、これを了承した。

### ・ 審議会の成立について

出席委員 15 名で本審議会は成立した。

## 1 会長あいさつ

本日の議題の説明：

(1) 設楽町第3次総合計画／第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の冊子イメージについて

第1回の審議会において「読んでもらう工夫が必要」との意見があった。住民にとってわかりやすく親しみやすい冊子とはどのようなものか、という観点からご意見をいただきたい。

## (2) 住民会議の報告と計画案

「みんなで語ろう、設楽のこれから。」をキャッチフレーズに「1. みんなが主役の全員協働のまちづくり」「2. まちと産業の担い手が育つまちづくり」「3. 安心して子育てできるまちづくり」「4. 森と水・豊かな自然環境を活かすまちづくり」の4つのテーマで、それぞれ2回ずつ開催された。これらの内容を踏まえた総合計画の構成案や基本目標のレイアウト案について、住民の思いや提案が適切に反映されているか、また、行政との役割分担のあり方も含めてご確認・ご審議いただきたい。

## (3) 住民フォーラムの開催について

総合計画案を広く住民の皆さんに知っていただき、理解と参加を促していくため、住民フォーラムの開催が予定されている。そのねらいや内容案についてご意見をいただきたい。

## 2 議題

(1) 第3次設楽町総合計画／設楽町第3期総合戦略の冊子イメージについて、事務局から説明。

### <要約>

- 【資料1】兵庫県赤穂市の総合計画概要版、及び、大阪府泉大津市の総合計画概要版
- 図やイラストを活用した総合計画概要版の参考例として【資料1】を示す。将来像や基本目標、重点的な取り組みなどを視覚的に伝える構成となっている。
  - 住民主体のまちづくりを前提に、わかりやすく親しみやすい概要冊子として「したらの未来ブック（仮称）」（A4・8ページ程度、2,000部）の発行を目指し、各戸配布する。

### ○ 質疑応答

(委員)

絵があると見るきっかけになるのでよいと思う。

(委員)

イラストを使ってわかりやすくするのは当たり前で、プラスアルファ、有名なイラストレーターや絵本作家に頼むとか。欲しくなるような冊子にしないと見ない。総合計画という名前である必要はない。設楽町の現状を踏まえて、みんなでこういう方向にがんばって行こうというのがわかるようにすべきである。

(事務局)

概要冊子は「したらの未来ブック（仮称）」という名称で、なるべく固いイメージを取

り除いたものにする予定である。

(委員)

文字が多いと一般の方は読まないと思うので、写真付きでわかりやすくしたい。表紙に強い写真を持ってきて、目を引くようにした方がよいと思う。

(委員)

冊子にするのか、それとも見開きにするのか。いろいろな学校関係のパンフレットを見るが、開くと一枚の絵になっていて、スゴロクになっているものが面白いと思った。子どもが見て楽しそうなものは、大人も見たいと思う。概要版は短い言葉とキャッチフレーズで、端的に大事な事だけを伝える方がいいと思う。

(委員)

有名な作家とかイラストレーターもいいが、地元の子ども達が描くのもいいのではないか。町内には1中4小あるので、絵が好きとか描きたいという子どもがいれば、お願いするといいと思う。

(委員)

新しく架けられた橋の文字を書いてもらったりとか、学校、教員関係の冊子に発案を入れたりとか、子どもを使った事例はたくさんある。

(委員)

全世代が大前提になるが、どの世代にこの冊子を読んでもらいたいのか。特に若い世代に読んでもらいたく、中高生が読んでワクワクするような、楽しく読み進めていける構成にしたい。わかりやすい言葉、文字の大きさを意識してつくってほしい。

(委員)

最近ユニバーサルデザインを意識してものをつくる傾向があるが、その点はどうか。

(事務局)

もちろんユニバーサルデザインも意識してつくる必要があるが、知識が不足しているので、ぜひお力添えをお願いしたい。若い世代に手に取ってもらいたいが、全世代に見ただけのようなものにしたい。

第1回においても、有名な絵本作家に頼むという案が出されていたが、町としては、地元の作家に依頼して、地域の中でお金を使いたい。小中高生が描くのもいいアイデアと思う。総合計画の内容をある程度固めてから、冊子についての意見を再度お伺いしたい。

## (2) 住民会議の報告と計画案について、受託者から説明。

### <要約>

【資料】設楽町住民アンケート自由記述まとめ

【資料 2-1】設楽町人口推計

【資料 2-2】住民会議の概要

【資料 2-3】人材マップ表（住民会議の報告）

【資料 2-4】 設楽町総合計画構成案

【資料 2-5】 総合計画基本目標レイアウト案

## ○ 質疑応答

(委員)

人口が減っても活気なまちというのは、例えばどのようなことか。

(受託者)

町内の変化がまさにそれだったと思う。10年前に総合計画を策定したときは、あまり元気や活気が見られなかった。人口は減ったものの、住民会議でお話いただいたような楽しい活動により、この10年で活気が出てきたと感じている。住民が主体的に動く活動が増えていくことが活気なまちだと思う。そうなるのは人口が減っても可能であり、そういう計画になればと思う。

(委員)

住民会議に出席した住民は100人程度ということで、約4,000人いる中の100人程度だが、本当にそれで住民が望むものが入っているのか。考えが偏っている可能性はないとか、そのあたりはどう考えているのか。住民会議の場では、想いを持ってもなかなか言えない人も多いと思う。アンケートを取るなど、なるべく多くの人の意見を集めるような工夫はできないか。

(事務局)

前回の策定においては、住民会議のようなものを開くことはなく、審議会委員と役場職員で内容を決めた。今回はそうではなく、住民活動をしている人を主体として策定したいという想いで住民会議を開催している。この審議会は、住民の代表という立場で皆さんにご参加いただいている。足りない部分があるようであれば、その部分についてご指摘いただきたい。また、議会に承認を得る必要があり、当然ながら、パブリックコメントでご意見を伺う機会もある。

住民アンケートは既に行っており、回答率から全体の意見としてヒアリングできていると思っている。今後は、計画の骨子案をつくりながら住民フォーラムを行い、ご意見を伺う用意もある。なかなか想いを言えない方は、誰かに代弁してもらうのもひとつの手段かと思う。

(委員)

セクター4として「心身ともに健やかで文化が継がれるまちづくり」が加えられたことは、福祉分野の担当者としてすごくいいと思うが、障がい者というキーワードがどこにも入っていない。障がいがあっても暮らしやすい社会、という文言をぜひ入れていただきたい。また、高齢者や医療福祉と文化が一緒になっていて、ちょっとわかりづらいと感じる。

(事務局)

福祉と文化を一緒にするかどうかについては、後ほど検討させていただきたい。障がい者というキーワードが欠落していたことは、大変申し訳ない。まだ計画案の段階であり、障がい者計画や障害福祉計画などと連動させ、これから担当とともに項目出ししていきたい。

(委員)

みんなが主役の全員協働のまちづくりが一番前にきているが、重点を置くものが冒頭になっているなど、セクターの順番には意図があるのか。

(受託者)

特に順番の意味はないので、変更することも可能である。

(委員)

説明を聞くと「自分たちでやっていきましょう」ということが根本にあると感じる。そうであれば、町の方でこういう支援をしますとか、支援の中身を強調した方がいいと思う。

(受託者)

「行政の役割」の欄は、住民の動きに対して役場がどう支援できるのか、連携できるのかという案を記載している。それ以外にも役場がやりたいこと、やらなければならないことがあり、この部分を考えるのが役場の宿題になっている。

(委員)

住民会議で託児を用意したとのことであるが、私が参加した回では利用がないようだった。他の回での託児の利用状況はどうだったか。

(事務局)

周知不足があったかもしれないが、10月21日、1月20日、1月27日と3回の託児希望があり、1回につき2人のサポート体制で、2～3人の利用があった。住民フォーラムでは、子育て世代にもたくさんご参加いただきたい。

(委員)

子育ての第1回目に参加したが、割と多くの若い方が参加され、園児と一緒に参加しているお父さんもみえた。関心が高いと感じるとともに、皆さんの色々な活動を知ることができ。参加してよかったという印象を持った。

(委員)

子育て世代にいろいろ声掛けして誘ったが、過去の会議に参加して、意見を出してもボールが返ってこないという印象を持った方はなかなか来てくれない。だから、参加する人がほしい同じになってしまう。他に声かけするいい方法があれば教えていただきたい。子育て世代には託児があると助かるが、夜は参加しにくいと思う。

(委員)

このような会議には10人も来ないことが多いが、30人以上とか、結構たくさん来ていると感じた。もっとたくさんの方の意見を聞いた方がいいのかもしれないが、町民アンケ

ートでは、まちの現状に満足している人が割といた。住み続けたい人が70%となっていたので、そうした方からはあまり意見が出ないのではないかと。こうした会議を住民に浸透させていくことが大事だと感じている。

(委員)

セクター2の「まちと産業の担い手が育つまちづくり」の「②地域エネルギー会社による経済循環」で、電力が地域の資金になるということはすごくいいと思う。以前は、太陽光発電や風力発電を推進しようという流れだったが、最近は太陽光パネルが環境破壊になったり、風力発電も課題が生じたりしている。自然や景観などにちゃんと調和を取った上で、という文言を入れてほしい。

(委員)

地域エネルギー会社の事務局の一員として関わらせていただいております、町民会議でも多数の質問をいただいた。こちらとしては、自然環境や景観を破壊するようなことは一切しないとはっきり申し上げている。むしろ、その防波堤となるような会社であることをご承知いただき、今後も公の場でしっかりと説明していきたい。

(委員)

住民会議で出た意見や質問は、何らかの形で住民に周知するのか。

(受託者)

周知はしたいが、膨大な意見が出ており、どういう形でお示しするかを検討したい。

(委員)

年配の方からは、地域に関心を持って活動していたが、年をとるにつれ無関心になってきた、という声が多い。高齢者人口が多くなり、無関心の人が増え続けていってしまうと思うと、若い人だけでなく、少しでも住民全体にわかってほしい。

(委員)

計画案を見るとよくまとまっており、自分自身の学びになった。気になっているのは、セクター5の「森と水・豊かな自然環境を活かすまちづくり」のところで、自然環境を活かしてまちづくりをするに留まっている点である。設楽町は3つの河川の水源地であり、保全することを盛り込んでいただけるとありがたい。

(委員)

本当に自然が豊かなのか、疑問に思った。豊かな森とは、多種の木があったり、動物が暮らしやすかったりするものである。最近は熊の話もあり、子どもたちに対してこれを自然と言っているかどうか、と思うところもある。アウトドアのまちだが、ダム建設で木が切られているのを見て、子どもたちも何か感じているところがあると思う。本当の自然の豊かさとは何か。いい森をつくっていくことを考えるきっかけになるといいと思った。

(委員)

セクター2の「まちと産業の担い手が育つまちづくり」の「⑤小さな起業・チャレンジ支援」で、お金のことが書いてない。起業やチャレンジするにはお金が必要であり、小口

融資をすとか、昔の結の考え方を現代版にしたものなど、まちづくりへの参加意識を高めるひとつの手法だと思う。委員には金融関係の方もいるので、助言や知見をいただいて盛り込んでいったらどうか。例えば、みんなで1万円ずつ出資して小さな店をつくり、うまくいったら数百円ずつリターンしていく、スモールビジネスのようなやり方も盛り込んだらいいのではないか。

### (3) 住民フォーラムの開催について、受託者から説明。

#### <要約>

#### 【資料3】住民フォーラム企画案

#### ○ 質疑応答

(委員)

住民フォーラムの場で評価するのは如何なものか。展望がない計画だったら作り変えないとダメではないか。

役場が住民の意見をいろいろ聞いた上で、一歩前に進もうという計画をつくろうとしているように感じる。それをまずわかってもらうことが重要であり、立派な計画ができたので展望が持てるという評価をもらうものではない気がする。今まで役場主体で考えてきたものを住民と一緒に考える、これまでは踏まえて変わっていくことが最大のポイントではないか。

(委員)

「町役場が住民の期待を肌で感じてやる気を出す」とあるが、町役場とは役場職員という意味か。こういうものをやらなくてもやる気を出してもらいたい。

(委員)

参加者100人程度を目標としているが、それで広く知ってもらうことになるのか。

(事務局)

もっと参加者を増やすのであれば、自治会組織などを通じてお願いすることもできると思うが、正直(参加いただくことは)難しい。区長会や地区懇談会、中学校、高校に向いて話すという方法もある。今までと違う取り組み方法でやってきており、とりあえずこれでやってみて、他の組織にも周知していくように努めたい。

(委員)

こういう方針で進んでいるというのを住民に発信することが必要ではないか。そういう手立てはできないか。

(事務局)

この審議会については、議事録を含めて協議内容をホームページに掲載はしているものの、残念ながら見ていただいている方は少ない。住民会議の中でも、町としてプロモーションにもう少し力を入れろという言葉が出ており、情報発信の方法が課題のひとつになっ

ている。今回の計画においては、広報したらの表現や SNS の発信方法も考えて改善していきたい。

(委員)

総合計画をつくるにあたり、役場職員の協力なしには進んでいかないと思うが、住民フォーラムにはどれくらい参加するのか。

(事務局)

各課室の管理職は必ず出席することを考えている。いつも同じ職員が参加しているという感じなので、今後は広く参加を呼び掛けていきたい。

(委員)

参加者 100 人程度の目標で、役場がどれだけ発信しても、やっぱり関心がある人しか拾わないと思っている。住民フォーラムは、住民が参加する場を設けていると思っており、私の意思表示にもなるが、審議会委員が各自のコミュニティに声をかけ、参加者をひとりでも増やすことが大事だと思っている。私も自分のコミュニティで人を誘っていきたい。

(事務局)

とても心強く、ありがたい。

## ○ 閉会

- ・ 次回の審議会は、住民フォーラムのまとめや行動指針、分野別行動計画のまとめを議題とし、6月頃に開催予定。